

JILPT 資料シリーズ

No.131 2014年3月

欧州におけるキャリアガイダンス政策とその実践①

## 政策から実践へ

—欧州における生涯ガイダンスに向けたシステム全体の変化—



欧州におけるキャリアガイダンス政策とその実践①

## 政策から実践へ

— 欧州における生涯ガイダンスに向けた  
システム全体の変化

First published in English as  
*From Policy to Practice: A systemic change to lifelong Guidance in Europe*  
by the Publications Office of the European Union  
© European Centre for the Development of Vocational Training, 2010

Japanese translation: ©The Japan Institute for Labour Policy and Training, 2014  
Responsibility for the translation lies entirely with the  
The Japan Institute for Labour Policy and Training

© 独立行政法人 労働政策研究・研修機構, 2014  
翻訳に関する責任はすべて当機構が負っています。

## まえがき

本資料シリーズは「欧州におけるキャリアガイダンス政策とその実践」として全3巻からなる翻訳の第1分冊である。

我が国における昨今のキャリア環境の激変に伴い、労働者の働き方、キャリア形成のあり方には大きな変化がみられる。特に、昨今の人口動態の大きな変化、非正規就労の拡大、雇用の流動化等を受けて、現在、働く人々の組織との関わり方は変質しており、以前にもまして重要な課題となっている。

こうしたなか、海外においても、特にヨーロッパにおいて、改めて働く人々のキャリアを支援するキャリアガイダンスが注目されている。現在、人々のキャリア形成・キャリア発達には何らかの適切な支援がなされる必要があり、そうした支援には一定の有効性があることが次第に明らかになっている。また、自らのキャリアを適切に管理し、持てるスキルや知識を十分に発揮して働く従業員が増えるほど、企業等の組織にとっても有益である。そして、そうした個人と組織が増えるほど、社会経済全体の様々な問題の解決に良い影響を及ぼす。結局、適切なキャリアガイダンスを提供するための施策とその実践は、社会経済全体に影響を与える有効な施策であるとの評価が改めてなされるようになっている。

こうした観点から、2000年代には、特にヨーロッパにおいて、キャリアガイダンス政策に関する数多くの報告書が発刊された。それら報告書は、おもにEUに属する各国がそれぞれいかなるキャリアガイダンスの体制を敷き、どのようにキャリアガイダンスを提供しているかといった観点から、各国の政策およびその実践についてレビューを行うものであった。

しかしながら、これら報告書の多くは、日本の現状にとっても有意義な議論を提供するにもかかわらず、これまで十分に紹介されず、必ずしもヨーロッパにおけるキャリアガイダンス施策に関する議論を、ヨーロッパ各国と共有していると言えない面があった。

そこで、今回、2000年代に発刊されたヨーロッパのキャリアガイダンス政策とその実践に関する報告書の中から、以下の3冊を日本語訳し、若干の解説・要約をつけて発刊することとした。

- ①From Policy to Practice: A Systemic Change to Lifelong Guidance in Europe.
  - ②Career Development at Work: A Review of Career Guidance to Support People in Employment.
  - ③Career Guidance in Europe's Public Employment Services. Trends and Challenges
- ※①び②EU : European Centre for the Development of Vocational Training (CEDEFOP)
- ③ EC : Employment, Social Affairs and Inclusion DG

なかでも、本書第1分冊は、特に生涯キャリアガイダンスに関する議論を紹介するものであり、第2分冊、第3分冊に対する概論的な位置づけとなるものである。従来、キャリアガ

イダンスは学校卒業時などの特定の時点における進学や就職の支援とみなされてきた。それに対して、現在、ヨーロッパにおいては、生涯にわたってあらゆる時点であらゆる対象層が希望すれば支援を提供されるべきであり、そうした生涯キャリアガイダンスのシステムへ全面的にパラダイムシフトすべきであるとされている。本書は、おもに、この従来のキャリアガイダンスから生涯キャリアガイダンスへの変化に、いかに欧州の各国が対応しているのか、また対応できていないのかを、各国の政策を比較する形でとりまとめたものである。

本書並びに全3巻となるこの翻訳が、我が国における各種雇用政策を検討するにあたって一助となれば幸いである。

## 担 当 者

氏 名	所 属
しもむらひでお 下村英雄	労働政策研究・研修機構主任研究員（監訳・解説執筆担当）
まつもとやすひこ 松本安彦	労働政策研究・研修機構統括研究員

## 目 次

<b>I 翻訳に当たって(翻訳者解説)</b> .....	(1)
<b>II 政策から実践へ</b> <b>: 欧州における生涯ガイダンスに向けたシステム全体の変化(日本語訳)</b>	
1. 序章 .....	11
2. 生涯キャリアガイダンスパラダイム .....	18
2.1. 生涯ガイダンス: 異論のある概念 .....	18
2.2. 欧州と生涯ガイダンスパラダイム .....	25
3. 生涯ガイダンスシステムの実施 .....	28
3.1. 実施の進捗状況 .....	29
3.2. 未解決の課題 .....	34
4. ガイダンスへのアクセス拡大 .....	37
4.1. サービスの拡大 .....	37
4.2. 職場でのガイダンス提供 .....	40
4.3. 対象を絞ったサービス .....	42
4.4. ICT の利用改善 .....	46
4.5. コミュニティへのアウトリーチ .....	48
4.6. サービスのマーケティング .....	48
5. 品質保証の仕組みの強化 .....	50
5.1. 品質保証へのアプローチ .....	50
5.2. 品質保証メカニズムの限定的適用 .....	52
5.3. 品質保証アプローチ実施の進展 .....	53
5.4. 労働市場に関する品質保証の特殊性 .....	58
6. 学習とキャリアの管理 .....	60
6.1. 生活と仕事のための能力開発 .....	60
6.2. 枠組みとカリキュラムのガイドライン .....	63

6.3. 残る課題 .....	64
7. 政策とシステムの開発のための機構の強化 .....	67
7.1. 政策・システム開発でのパートナーシップ .....	67
7.2. ガイダンス実践者の初期・継続教育 .....	71
7.3. 超国家性 .....	75
8. 前進への道 .....	77